

事業報告書

1. 法人の概要

・設置する学校

洛星中学校

2024 年 4 月現在生徒数(男子のみ)	第 1 学年	201 名
	第 2 学年	223 名
	第 3 学年	225 名
	計	649 名

洛星高等学校 全日制課程 普通科

2024 年 4 月現在生徒数(男子のみ)	第 1 学年	217 名
	第 2 学年	219 名
	第 3 学年	212 名
	計	648 名

役員等の概要 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

理事長	島 田 眞 路		
理事	佐 山 展 生		
理事	バティオノ・ウィリアム・セルジュ (2024 年 12 月 31 日まで)		
理事	松 井 道 宣	理事	田 辺 保 雄
理事	定 本 ゆきこ	理事・校長	小 田 恵
理事	勝 見 彰	理事	伊 藤 眞一郎
理事	中 山 英 治	理事	大 河 正 明
理事・事務局長	南 出 貴 志		
監事	吉 田 靖 司	監事	奥 本 裕
監事	山 口 隆 範		

評議員	上 田 利 彦 (議長)	西 村 周 三	渡 邊 卓
	内 海 奈英子	菅 原 邦 美	栗 本 嘉 子
	川 口 義 弥	松 山 大 耕	門 田 理
	勝 見 彰	佐 山 展 生	吉 岡 正彦郎
	伊 藤 眞一郎	松 井 道 宣	兼 元 康 次
	田 辺 保 雄	仲 井 嘉 浩	岩 田 恵
	石 丸 文 子	片 山 知 行	北 風 卓 郎
	児 玉 英 靖	藤 岡 秀 夫	藤 原 義 久
	石 川 康 浩 (2025 年 1 月 31 日まで)		
	橋 本 仁 子 (2025 年 2 月 1 日から)		

・教職員の概要 (洛星中学校及び洛星高等学校)

職 名	校長	副校長	事務 局長	教諭	講師	養護 教諭	事務 職員	労務 職員	計	校医 薬剤師
人 数	1	2	1	63	24	1	22	5	119	3

教員専任率(高校 83%, 中学 56%) 京都南部私立学校平均(高校:50%、中学:55%)

2. 事業の概要

(1) 法人

2024 年度決算が計算書類のとおり、滞りなく終了したことを報告します。

昨年 3 月に設立母体であるヴィアトール修道会が日本での宣教撤退を決定いたしました。しかしながら、撤退決定後もカトリック京都司教区のご支援をいただき、カトリック校としての認可を得、今後ともヴィアトール修道会がこれまで築いてきた建学の精神を受け継ぎ、カトリック校として存続していくことを決めました。自分たちで、創立時からの教育理念を守りつつ、教育事業の更なる発展のために、事業を展開していきます。

また、2025 年 4 月から施行される改正私学法の対応を行ってまいりました。「我が国の公教育を支える私立学校が、社会の信頼を得て、一層発展していくため、社会の要請に応え得る実効性のあるガバナンス改革を推進するための制度改正を行う。」という改正趣旨を踏まえて、「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」の考え方から、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配を整理し、「建設的な協働と相互けん制」を確立する体制となるように制度を整えて、寄附行為改正を行いました。今年度は施行初年度にあたり、理事会や評議員会の運営等が、改正私学法の趣旨に則って行えるように努めていきます。

ア. ヴィアトール修道会の日本宣教撤退への対応

設立母体であるヴィアトール修道会が日本での宣教撤退を決定されました。しかしながら、引き続きカトリックミッションスクールとして学校運営を行っていくことを基本として、学校運営に滞りが生じないように対応策を講じてまいりました。

イ. 私学法改正への対応

2025 年 4 月から施行される改正私学法に対応するため、この 1 年をかけて、理事会や評議員会のあり方、運営方法等について研究を重ね、当学園の特性を踏まえつつあるべきガバナンス体制を模索してまいりました。改正法の趣旨に照らした寄附行為の改正を行い、2025 年度は執行初年度となります。改正私学法の趣旨に則って、運営が行えるように努めてまいります。

ウ. 各種施策について

昨年度に策定した中期計画「洛星 VISION2030」に沿って、順次施策を実行に移してまいりました。取組内容としては、以下の通りとなります。

①スクールバス運行開始

西大路四条一円町一学校のルートで朝夕スクールバスの運行をスタートしています。生徒の通学の影響で、バスの乗客に支障が生じており、ある種の社会問題解消のため、また、スクールバスを走らせているということが反響を呼んでおり、生徒募集にも一定の効果がありました。

②自習室運営

中学 1 年生は必須、中学 2 年生は勧奨という形で、基礎期の段階から自学習習慣をしっかりと身につけてもらうことを目的として、放課後自習室運営を専門業者（スクール TOMAS）の協力を得て、取り組んでまいりました。生徒各人の課題克服あるいは教員との連携を通じて成績向上を図るうえで

一定の成果があったものと考えております。

(パン自販機導入)

放課後、夜 20 時まで自習室運営を行っていることから、遅くまで勉学に勤しむ生徒の空腹を満たすために、食堂内にパン自販機も導入しております。

③大講堂の改修について

熱中症対策等で長年の課題であった空調設備の設置を検討してまいりました。教育協力会アンケートにおいても、保護者の方々からの要望が多く寄せられており、大講堂の改修資金については教育協力会にも援助をいただきながら、協調して取り組んでまいりました。主な取り組みは次の通りです。

(空調設備設置)

大講堂内の空調(冷房)を設置しました。夏季の運動はもちろん 9 月に実施した文化祭においても、合唱、演劇など快適な環境の中で実施でき、保護者の方々も観賞していただいたと思います。

(元弓(文化祭準備等作業場所) エアコン設置)

大講堂下の元弓(文化祭準備等作業場所)においてもエアコン設置は長年の要望事項として挙げられていました。生徒たちが、熱中症の心配なく、快適に作業を行えることを目的として、夏休み前にエアコンを設置いたしました。

(大講堂下トイレ改修)

老朽化していた大講堂下の男女トイレについて全面改修を行いました。行事があつて保護者の方々が多いお越しになる機会に、トイレの入り口から空き状況が視認しにくく、混雑して行列ができたり、臭いが気になったりといった状況を解消するために、クリスマスタブローが開催されるまでにトイレを全面改修いたしました。

(大講堂ワイヤレスマイクシステム改修)

アナログとデジタルが混在していたことも要因として挙げられますが、大講堂のマイクがうまく声を拾わない、マイクを通した話しが聞き取りづらいといった問題を解消するため、デジタル化を進めマイクシステムを全面改修いたしました。

④北校舎の施設・設備の充実について

各教室があり、学園生活において普段一番生徒がいる場所である北校舎について、教育環境を整備することを目的に、様々な箇所に手を加えてまいりました。主な取り組みは次の通りです。

(各クラブ室エアコン設置)

熱中症対策として、夏休み前に各クラブ室にエアコンを設置し、各部室で部活動が快適に行えるように整備しました。

(保健室改装【ベッド増床】)

生徒の保健強化ならびに利用者の増加に伴い、ベッド増床を目的に保健室の改装も実施しました。

(職員室改装【壁のガラス張り化】)

開かれた職員室をコンセプトとして、まずは、これまで壁で職員室の内部が廊下からは全く見えない状況であったものを、ガラス張りにして廊下から職員室の様子や教員の所在が分かるように改装

いたしました。

(購買部改装)

文房具や制服、体操服、靴ならびにオリジナル商品を販売する購買部も入りやすく、購入しやすいレイアウトに変更しました。これまで現金購入のみしか対応できなかった決済手段についても、保護者がカード決済できるようにキャッシュレス化も進めております。

(コンピュータラウンジリニューアル【ICT 推進】)

高スペック PC や大型スクリーンを常設したコンピュータラウンジにリニューアルしました。これによりオンラインでの遠隔授業やモニターを使用したグループワークなどが行えるようになり、ICT 教育を推進していくための環境を整備しました。

(選択教室プロジェクタ設置)

2023 年度に各教室にプロジェクタを完備したことに続き、授業等でもよく利用する選択教室についてもプロジェクタを設置しました。これにより全ての教室でプロジェクタを使用しての授業が可能となりました。

(見守りスペース設置【3 階…中 2、4 階…中 3】)

北校舎 WEST WING の 3 階には中 2 の各教室が、4 階には中 3 の各教室が並んでいますが、担当教員が常置するスペースがなかったため、生徒、教員双方の利便性向上のため、休憩時間等の見守りのため教員の待機スペースを設置しました。

(ナンバー錠導入)

各教科の研究室や印刷室、一部の会議室など様々な教職員が利用する部屋の開閉を、これまでは鍵で行っていましたが、利便性向上を図るためナンバー錠を導入しました。

(照明の LED 化完了)

温暖化対策で 2030 年までにすべての照明を LED 化する政府目標を背景とした対応ならびに、消費電力削減を目的に、これまでも LED 化を進めてまいりましたが、廊下、階段等の照明も LED 化し、完了の目処が立ちました。

⑤屋外・庭園・植栽の管理

きちんとしている学校は、外観もいつも清潔に保たれ、整っているものであるという心がけのもと、屋外箇所、庭園や植栽においても目が行き届いていなければなりません。当年度は主に次のことに取り組んでまいりました。

(藤枝整備)

北校舎とグラウンドの間、ネットに藤が育ち、毎年 5 月の見頃にはきれいな花を咲かせていますが、藤が育ちすぎて鬱蒼と茂っていました。景観を整えるため 1 年かけて藤枝を整備しました。

(芝桜整備)

西側庭園の芝桜が毎年きれいに咲くように、土壌改良を含めて手入れを継続して行ってまいりました。地域の方々はじめ学園付近を通行される癒しを提供している面もあり、景観を保つことも、学園イメージに大きく影響するという認識のもと取り組み、今年は茶会を開催できるまで庭園が整備されてきました。

(桜木調査、補修)

毎年、入学式や始業式のタイミングできれいに桜の花が咲いていますが、桜の幹が腐食している箇所もあり、元気を取り戻してもらうために桜木の調査、補修についても地道に取り組んできました。

(ヒマラヤ杉剪定)

大講堂横のヒマラヤ杉について倒木の恐れもあることから剪定を行いました。

(噴水工事)

出入口にある噴水も学園の象徴的な景観となっております。水量の問題などであふれ出ることもあり、不具合が生じることもありました。将来にわたり生徒や教職員のみならず地域の方々にとって癒しの場となるように、継続して噴水の手入れを行っていきます。

(漏水改修)

老朽化によりミレニアム館プール、発展館の漏水も発生しております。継続して使用できるように改修を行いました。

(雷レーダー再設置)

夏場の夕立、落雷の危険に備えて、雷レーダーの更新を行いました。特にグラウンドを使用するクラブが安心して部活動できるように整備を急ぎました。

⑥収益機会の拡大

洛星ブランドや学校施設を利用しながら、生徒の教育環境充実に資するための収益機会の拡大も試行してまいりました。

(洛星オリジナル商品の開発 … 猿田彦珈琲、鼓月、ロマンライフ等とのコラボ)

ブランドを生かしてオリジナル商品の開発を進めてまいりました。猿田彦珈琲とのコラボでオリジナルコーヒーを、鼓月とは和菓子を、ロマンライフとは洋菓子をそれぞれオリジナル商品を作れないか相談を重ね、連携方法を模索してまいりました。他社とも連携できるところは推進し、取扱商品を広げていければと考えております。

(施設外部貸出スキーム整備)

小学生を対象としたスポーツ体験教室を運営する会社・団体、地域の小中学生を対象としたバスケットボールやサッカーのクラブチームなどに対して、夜間の当学園が使用しない時にグラウンドや体育館の施設利用貸出を行うスキームを整えました。2025 年からはイングランドプレミアリーグ所属のリバプール FC が、小学生を対象としたサッカースクールを京都で開催したいという意向を受け、体育館を貸し出すことにしております。

⑦広報関係

生徒募集活動増強に資する目的で、対外的な発信の強化を模索しているところです。広報については、写真素材のリニューアル、ホームページ刷新を成果物としながらも、教職員がいま一度洛星ブランド力の高さを再認識するとともに、目線を上げることで、生徒募集活動においても自信を持って取り組むことができるようにしていくことを狙いとしています。併せて、生徒、保護者が洛星で通うことに誇りを持てるように、さらなるブランド力向上を図っていきます。

(HP リニューアル)

ホームページを全面的にリニューアルしました。あわせて、寄付金のページもリニューアルしました。

(学校案内リニューアル)

受験者を中心に、学園を PR するための学校案内もリニューアルしました。リニューアルにあたっては、写真素材を活用し、躍動感のある学園の様子が伝わるように努めました。

(広報全般のグランドデザイン策定)

ホームページや学校案内の刷新、インスタグラムの試行等で対外的な発信を強化していく方法を模索してまいりましたが、大きな括りでの広報戦略が整っていない中、手探りで出来ることから着手したことも否めません。そこで、広報に関するグランドデザインを描き、そのうえで各施策を展開していくことを検討してまいりました。具体的には、以下のようなことをねらいとして戦略を策定しております。

- ・学園の良さ、生徒の生き活きとした日常、教職員や同窓生、保護者の思いなどが伝わって、魅力ある学校であることが表現できるようにすることを前提として、
- ・統一感のあるブランドを構築していけるようにする。
- ・塾への営業展開、魅力ある学校であることを PR し、生徒募集面に寄与するようにする。
- ・生徒募集活動を強化する目的で、プレゼン資料の整備、存在感のあるブースづくりを検討する。
- ・同窓会、後援会との接点を強化する。ひいては寄付金増強につながるようにしていく。

⑧寄付金制度見直し（ファンドレイジング）

寄付してくださる支援者の方々が、分かりやすく、またクラブへの支援はじめ寄付したい項目に沿って寄付していただけるような寄付金制度の整備を検討してまいりました。

クラウドファンディングを実施してみて、多くの方々が支援いただける実績も積んでまいりましたので、この実績を踏まえて改良を重ね、より多くのご寄付がいただけるように、また寄付金募集を通じて学園の取り組みを安心して見守っていただけるように引き続き体制を整えていきたいと思っております。

(趣意書の改訂)

同窓会誌発送に合わせて同封している、寄付の趣意書のデザイン改良を行いました。

(クラウドファンディング型寄付金の実施)

特定の目的を設定し、それに応じた予算額・出来上りを明示した上で、賛同いただく意思表示として寄付を受け入れる、クラウドファンディング型寄付金を実施しました。具体的には、中学野球部全国大会出場遠征費、土曜講座「ベンチャービジネス入門」奨励金をクラウドファンディングで寄付を募らせていただきました。

(遺贈受付制度整備)

寄付の一環として、遺贈についても対策を講じる必要があるとして、これまで三井住友信託銀行に相談されれば遺贈先としてご案内いただく体制がありましたが、新たに READYFOR 社、京都銀行も追加していただき、遺贈受付制度を整備してまいります。

(教育環境充実資金委員会の活性化)

寄付金増強のためにご尽力いただいている教育環境充実資金委員会の活性化に向けて、担当者を

配置して取り組みを強化してきました。寄付金集めのための企画も、(事務局として) 取り組んでいくべき課題であり、また、実際に寄付金を主体的に集めていく動きをとっていくべきとの認識のもと、今後を見据えた資金集めにも着手していきます。

引き続き、組織としての寄付金獲得力の向上を図り、寄付政策の支援やスタッフの能力開発を行う外部機関と効果的な連携を図り、寄付金増強策を展開していきます。

⑨奨学金制度見直し

教育環境の充実、生徒への海外研修費用補助など、同窓会や教育協力会、教育後援会などの関連団体からの資金支援を受けて、奨学金支給させていただいておりますが、例えば学業奨励の一環として、成績優秀者に対する学費補助となるような奨学金制度が構築できないか、この場合の奨学資金をどのように捻出していくかなど、“支給対象の見直し”と“奨学資金捻出策の検討”を進めているところです。資金の流れを整え、変化を模索して対応していけるように継続して検討してまいります。

⑩事務局業務

事務局体制の整備にも継続的に取り組んでまいりました。属人的な仕事の排除(＝組織的な仕事への転換)と曖昧な業務手順を見直して業務の明確化、業務改善の意識を持って効率化を図ることを、メインテーマに、事務の厳正化と効率化に努めているところです。こうした取り組みを通じて、成果が出始めた内容は次の通りです。

(週休二日制導入…就業規則整備)

今後、人材確保を進めていくうえでも、従来の週休 1 日では募集しても人が集まらない時代に突入してきました。業務の互換性を高めながら、週休二日制でも業務が滞ることがないように勤務体制を整備しました。

(勤怠管理整備)

休日確保と恒常的に残業が発生しないように、週休二日制導入と併せて勤怠管理の整備にも努めてまいりました。教員の勤怠についてもきちんと管理し、残業や勤務日が続いているような教員がいた場合に、注意を促すことができるように体制を整えてまいりました。

(調査書の電子印導入による事務処理負担軽減)

事務効率化の一環として、これまで 1 枚 1 枚の書類を印鑑押印する作業が発生していましたが、電子印を導入することにより負担軽減を図る取り組みを行いました。

(DX 推進【支出願のワークフロー化、人事情報整備等】)

これまで支出依頼があるときは「支出願」の紙媒体のみでの手続きでしたが、紛失のリスクや事務室内の保管場所の確保、綴じ作業などデジタル化によって回避できる業務が残っていました。デジタル化によって省力化できる業務も増えており、旧態依然とした体制から、効率化を進めて軽減できる事務処理負担を企画業務に回すなどの体制整備に努めるため、事務全般の DX 化を進めています。

(会計業務整備 … 預り金、日当、立替精算処理の明確化)

これまで属人的であった会計業務にもメスを入れ、曖昧な事務手順の厳正化にも継続して取り組んでいます。各生徒の預り金金額の厳正な管理、日当や交通費、立替精算ならびに業者支払など支払処理についても厳格に行う事務処理体制に整えました。

(給与事務、会計業務のアウトソーシング化、マニュアル化)

少子高齢化の時代の波で、今後人材確保がますます難しくなることも想定しながら、給与事務や会計業務といった専門性はあるけれども、組織にとってはあまり収益を生み出さない業務について、一部アウトソーシング化を進めました。これにより業務のマニュアル化も進み、透明性、平準化が高まっております。

(事務局ミーティングの定期開催)

従来の属人的な業務遂行を排除し、事務職員がそれぞれどのような業務を担っているかを知り、皆で事に当たることを重視する目的で、週1のミーティング開催を定着させてまいりました。情報共有とみんなで改善策を講じ合う体制づくりに努めています。

(決裁フロー整備)

仕事の属人化の名残りでもありますが、決裁権限が不明確で、事務が滞ったり、処理が不十分なケースも見られました。業務1つひとつについて、手順を見直し、決裁権限を明確にして決裁フローの整備に努めました。

(経費削減対応…コピー費、光熱水費削減に向けて業者と折衝)

コピー機や光熱水費についても、現状に甘んじることなく、業者との折衝や相見積りを継続して実施し、経費削減を図っています。

⑪ICT 推進

(会議のペーパーレス化…教職員に対し iPad 配布)

職員会議をはじめとした会議において、会議資料をペーパーで配付していました。紙媒体は見やすい利点はある一方で、印刷等の準備に手間がかかり、会議後の資料整理の手間、保管場所の確保など煩雑さも残ることから、会議のペーパーレス化も推進しています。教職員に対してタブレット端末を用意し、会議時に PDF データで配布された会議資料にメモ等できるようにしました。

(サーバークラウド化)

従来からサーバーをオンプレミス（施設内に設置して運用）で管理していたが、昨今の自然災害等のリスクを考えて、サーバーを外部に移行し、リスク分散を図りました。

(Microsoft365 導入)

クラウドサーバーは Microsoft365 の教育機関向けのプランを導入しました。クラウド上にサーバーを移行することで、自宅でもサーバーへのアクセスが可能になり、また、iPad 上でも office の利用が可能となりました。生徒用の office365 も利用可能となり、高校生端末の office 費用が不要となるため、生徒へも還元することができています。

(教職員対象 AI・LLM 研修実施)

生成 AI が普及していく中で、業務の効率化ならびに授業準備や生徒指導の一助となるように、教職員希望者全員を対象に、「DX・AI 活用人材育成研修」を実施いたしました。ChatGPT や LLM を日常の業務で利用できるよう実践的な学びだけにとどまらず、様々な場面でどんなプロンプト（AI やコンピュータに与える「指示文」「入力文」「質問文」）を ChatGPT に打ち込んでいくのが効果的

なのかを学び、豊富なワークを通して取り組みました。実際に多くの教職員が日常業務において活用しています。

⑫その他

(学生寮提携)

遠方等の理由で通学が困難な生徒からの相談に応じることができたり、生徒募集において一定の効果が見込めることから、学生寮を用意している体制の構築に努めました。具体的には、学生寮「ドリー」を展開する共立メンテナンス社と提携して、二条駅近辺にある学生寮に、当学園から申し出があれば優先して受け入れるようにしていただいております。

今後検討していくべき事項は次の通りとなります。

○東校地

修道会から買い取った東校地の有効活用についても、計画を進めているところです。将来的に校舎建設も考えられないかということも含みつつ、ホール、自習スペース、寮、賃貸マンション、宗研のみならず、同窓会・教育協力会など各団体が集まったり、作業したりできるスペースなど、一定のニーズがあります。資金面をどう工面するかという資金計画や、用地開発、解体、埋蔵物調査など建築計画を具体的に検討している段階であり、早期に工事に着手できるように取り組んでまいります。

大きな方向性としては、

現 修道院を、自習室、同窓会・教育協力会等事務室（加えて学生寮も）に

現 宗研館を、駐車場に

していくことで検討を重ねているところです。

○南校地

南校地には、大講堂以外にも施設があり、老朽化も進んでいるところであり、今後補修、建替えなど現場の要望に応える形で着手していく必要があります。具体的に検討していることは次の通りです。

- ・クラブボックス
- ・音楽室（音響設備更新等）
- ・芸術棟改修
- ・大講堂下施設の整備、改修
- ・井戸・ポンプ、スタンドの解体、整備

その他に、検討し、推進していこうとしている施策を挙げると次の通りです。

○費用負担軽減

光熱費軽減策として太陽光発電導入検討

スクールバス購入検討

○電話交換システム更新

○防犯体制強化

防犯カメラ設置、警備体制見直し

○規程整備

○給与体系の見直し検討

○学校法人（理事会）の運営

役員選考ルール整備 等

○ICT 教育推進等

AI 講座、ベンチャービジネス、データ解析

○対外的な発信

施設貸出 … リバプール FC サッカースクール、リーフラス

塾、同窓会、後援会との接点強化

寄付金制度、奨学金制度見直し

生徒募集活動の更なる強化 … プレゼン資料整備、ブース

広報グラウンドデザイン … Renew the Future

○財政健全化

- ・財政の健全な運営に努力し、学園の建物・設備の維持管理計画や東校地の有効活用等について検討を進め、教育環境の充実に努める。
- ・生徒納付金、公的補助金、善意の寄付金を収入源とする学園経営において、人件費・教育研究経費・管理経費等について、従来の支出見直しも含め適正な予算執行を行う。
- ・ここ数年、有利子負債の低減を財政運営上の重要課題とし、継続している。収支の均衡維持を図りつつ、自己資金の留保に努力する。
- ・将来の教育活動を支えるのに十分な財政基盤の確保を目指し、減価償却引当特定資産、退職給与引当特定資産への繰り入れ等を継続する。
- ・教育環境の一層の充実に資するため、教育環境充実資金委員会と連携して募金活動も推進していく。特に税制上の特例を十分に活用した大口寄付金の獲得に取り組む。

収入増強策としては、寄付金制度の充実と特定資産の運用方法について引き続き検討を重ねてまいります。寄付金制度については、昨年度から検討を重ねており、新たな取り組みを行っていく予定です。また、特定資産の運用方法についても、リスクを極力回避しながら銀行預金以外での運用に切り替えていきたいと考えております。

費用抑制については、光熱水費や業務委託等の手数料などについて都度見直しを実施しているところです。不必要な経費は廃止する取り組みを今後とも心がけてまいります。

(2) 教育事業

カトリックミッションスクールとしての質の高い教育、「心（徳力）・頭（知力）・体（単なる身体能力のみを指すのではなく、行動する力）」のバランスがとれた人を育成するために、まず以下の聖書のことばを根幹に据え教育活動を行っています。

- 1) 「あなたの隣人を愛しなさい。」
- 2) 「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。」
- 3) 「求めなさい。そうすれば与えられるでしょう。」

特に 1) 2)の聖書のことばについては、折に触れ取り上げ、生徒心得にある5つの総則「静粛」「時間厳守」「礼儀」「美化整頓」「公共心」とも関連付けて、基本的生活習慣と人とのつながりを築く基礎として強調してきました。そして、生徒が洛星での学びを通して「人の痛みに気づき、寄り添える人」「学ぶ楽しさを知る人」として成長できるよう教育に取り組んでおります。

1. 「人の痛みに気づき、寄り添える人」の育成

①生活指導の徹底

ヴィアトール教育修道会創立者ケルブ神父の遺訓である5つの生徒心得（「静粛」「時間厳守」「礼儀」「美化整頓」「公共心」）が身に付くように指導。ケルブ講堂での合同朝礼を定期的に行い、整列、身だしなみ、挨拶など、Gentleman として集団生活を送るための基本の徹底をはかりました。後期以降はインフルエンザ等の流行により、対面での合同朝礼の回数は予定より少なくなりましたが、儀式（的な場）での態度、聞く姿勢には一定指導の効果は表れています。

②社会的な活動の充実

- ・障害をもった方とふれあう機会：毎年中学1年生に向けて全盲の松永氏による講演（学年全体にむけての講演と各クラスでのお話）を2024年度も行いました。
- ・チャリティ・コンサート：4月の第2土曜夕方に、大講堂にて簡易式反響板を設置して開催。約800名の観客を迎えました。2025年度以降については、大講堂反響板撤去のため、外部ホールで行うこととなります（2025年4月は高槻城公園芸術文化劇場トリシマホール）。
- ・募金活動・宗教研究の充実：生徒会の呼びかけ、およびクリスマスタブローでの献金で、カンボジア地雷撤去活動、能登半島地震被災地などへ寄付。今後も募金については生徒会だけでなく学園の取組みとしても活性化したいと考えています。
- ・宗研講座のひとつである「東北に学ぶ」では、立命館大学との連携によって、災害についてのフィールドワークを始め、東北での研修、事後学習や発表（文化祭、OS）などを活発に行っています。
- ・災害被災地域や紛争地域、発展途上国の現状に目を向け、各人のできること、すべきことを考えさせるべく、毎朝の祈り（放送8:00および集い8:05～）や合同朝礼での祈りの中で、国際社会の問題にも目を向けるように働きかけました。
- ・中学1年では教皇フランシスコのいう「エコロジカルな霊性」を軸に、SDG sについても考える機会

を持ちました。4月に行った滋賀県高島市での宿泊研修もその一環です。

- ・長期休暇の取組みの促進：2024年度は十分ではありませんでした。今後は地域での（奉仕）活動をはじめ学校外の活動の参加は今後もっと積極的に呼びかけると同時に、小さな活動でも取り上げ認める（褒める）ことで大きな活動へと促していく必要があります。

③クラブ活動等の課外活動・学校行事の充実

課外活動については、2024年度も多彩なクラブ、同好会、委員会活動を通して、生徒一人ひとりが神から受けた「タレント（能力）」を引き出し、伸ばせました。限られた時間を最大限に活用できるよう、また生徒が主体的に活動できるように、教員だけでなく、同窓生、外部の指導者などの協力の輪が広がりつつあります。主な大会入賞結果などについてはHPに掲載しております。

2. 「学ぶ楽しさを知る人」を育てる

①学力向上

中学1年生については、入学後早い時期に基本的生活習慣と良い学習習慣を身に付けさせることを目指し、必要に応じて、分割授業、補習、個別指導、宿泊研修の充実を図りました。

2024年度から始めた取り組みとしては、中学3学年において英語科授業の一部を分割し少人数で行うこと、そして放課後自習システム（ELC）の導入が挙げられます。ELCについては、当初は東校地の宗教研究館を使用する計画で進めておりましたが、種々の問題からリヨンホールを使用することに変更し、収容人数や管理責任の所在等いくつかの課題を抱えたままのスタートとなりました。中学1年生は全員加入、2年生は加入を推奨、それ以上の学年は任意加入としました。場所の問題、教員との連携の問題、費用の問題など多く残る中での導入となったELCですが、低学年のうちにしっかりと自学習習慣を定着させることが、大学受験やその後の学びにおいて身を結ぶことに繋がっているのは確実です。2025年度以降もELCは継続し、外部委託業者（スクールTOMAS）と連携して課題の解決とさらなる充実をはかります。

また、昨年度から取り入れた中学2年での実力テストをはじめ、中学3年、高校1年での実力テスト（外部模試）については、大学受験に向けての意識づけとしての重要性の認識が教員の間で未徹底であったことは否めません。上に大学を持たない進学校であることを全員が意識し、実力テストに向けた取り組みに励みます。

②進路確保

- ・68期進学状況（現役）は、京大17、東大4、国公立医学部医学科20、防衛医大3で、年度当初の目標には及びませんでした。

この学年は、早い段階から例年になく医学部志望者、私立医歯学部専願者も多く、その影響で京大志望者が少なかった等の事情はあったものの、大学入試においてよい結果（数字）を出せなかった要因をしっかりと分析し、問題点を全教員で共有します。

- ・年度末までの転・退学等は19名でした。小学生時からの不登校傾向を引きずっていた生徒や家庭の問題を抱える生徒は多く、そのほか学力不振、友人関係の問題、体調不良、昼夜逆転など理由は様々ですが、新しい環境で自らのタレントを発揮してくれることを祈ります。

また、不登校傾向については、早い段階で気づき対応できるよう教育相談の体制を充実させ、教員が生徒に向き合う時間と余裕を持てる環境の整備をはかります。

③国際教育の充実

コロナ禍以前オーストラリア語学研修として行っていた中3終了時の希望者海外研修を2025年3月に再開。60人の枠で 3月25～30日シンガポール研修を行いました。

高Ⅰではイギリス研修（Public Schoolでの寮生活2週間）を新たに導入、7月20日～8月5日 英語研修と他国生徒との交流を通じ、英語力向上と異文化理解を図りました。

高Ⅱの次世代リーダー養成プログラムは例年通り実施（7月13～21日設定）。システム異常によるトラブルで、ボストン滞在が2日延長というトラブルに見舞われつつも無事終了しました。高Ⅰ・高Ⅱともに費用が高騰しておりますが、学園からと同窓会からの「奨学金」を頂いております。

上記3つの海外研修については、学校HPやブログなどで発信し、在校生徒に向けても合同朝礼や始業式場で代表生徒から活動報告を行っています。

この他にも、校内、校外（他校も含め）で開催されるグローバル教育プログラムを積極的に取り組んでいます。小規模の交流でしたが、京都府からの斡旋で10月にはオーストラリア、パースの高校生と教員約30名を迎え、3時間という短時間の滞りかつ高校1年2クラスのみとの交流ではありましたが、英語学習への意欲向上のよい契機となりました。2025年度からは「国際教育担当」教員も配置し、引き続き海外からの交流プログラムを積極的に取り入れます。

また、2024年9月末に上智大学と高大連携協定を結び、3月には上智大学主催のタイ・スタディ・ツアーに高校生2名が参加しております。

④講演会の充実

創立記念講演やOB講座など大小の機会を活かして、生徒が学問の面白さや奥深さを味わう機会を多数設けました。創立記念講演では、マルタ騎士団の騎士で九州大学准教授の武田秀太郎氏を講師としてお招きしたほか、中学3年での赤ちゃん講座（7月6日）をはじめ、各学年で「生命の安全教育」をテーマとした講演会、平和講演、人権講演会（大久保暁氏講演会など）を複数開催しました。また希望者対象の講演・座談会も多数行いました。中でも、法務省から派遣された本校OBによる検察官の仕事についての講演・座談会、流体力学を専門とする本校OBによる講演・座談会は、参加した生徒の反響も大きく、貴重な学びの機会となりました。

また、高Ⅰ全体で行う京大キャンパスツアーに加え、東京研修も2024年度は120名が参加。京都府立医大キャンパスツアーもあわせて、単なる大学訪問にとどまらず、講演、研究室訪問も含んでいる本校ならではの充実したプログラムとなりました。

3) 教育活動の強化

①宗教教育

これまでのように聖職者の存在や宗教科教員の力だけで、カトリック学校として宗教教育を行うことは不可能という状況の中、課題は山積していますが、今一度建学の精神や聖ヴィアートル、ケルブ神父が大切にしてきたことを見つめ直す機会を与えられました。

毎朝の小聖堂での朝の祈りでは、チャブレンのウィリアム神父が離日した後、多くの教職員の協力を得て、短いながらも密度の濃い分かち合いの時が持てるようになったことは、これまでのようにヴィアートル修道会の方や信者教職員にだけ依存してはカトリックミッションスクールとして立ちゆかないという教職員の気持ちの表れと受け止められます。

宗教的儀式を伴う行事について、ウィリアム神父が離日後も京都司教区洛北ブロックの協力を得て、すべて滞りなく行えました。カトリック校として、もちろん儀式の継続だけが重要なものではありませんが、創立記念ミサ、追悼ミサそして感謝ミサ、聖体賛美式の祈りを通して、洛星というカトリック校で学べたことを誇りとして68期生が巣立っていったことに感謝します。同時に今後の宗教行事の持ち方、宗教教育のあり方を「宗教委員会」を軸に学園全体で検討する必要に迫られています。

②生徒・教職員のメンタルサポート体制の整備

保健室の体制の整備と同時に、「教育相談室」を設置し、2024年4月から相談員2名（派遣）が週3（後期から4日）対応しています。設置当初から多くの相談希望があり2025年度以降は、担任をはじめ教職員との連携を深め、さらなる充実を図ります。

4）教職員研修

・全教職員を対象とした研修会としては、下記の3回開催。

- ・7月に外部講師による「いじめ」問題についての研修会
- ・8月末に赤十字社による救急救命講習会 →大雨により中止
- ・12月に福田カウンセラーによる「合理的配慮」についての研修会

これ以外に参加希望制でAI活用講習（オンライン）も企画し、多くの協力員がその成果を実感しています。また他校の実践例の見学（他校からの見学も）、教科研究に必要な研修会参加についても奨励し、2024年度も社会科、国語科、家庭科の教員が他校教員と交流・研修しました。

授業の充実のために、学校評価アンケートの結果（特に自由記述）をフィードバックすることに加え、各授業担当者には、2024年度からは授業内でのアンケート実施を課し、自身の研鑽材料とするよう求めました。（2025年度は年度内に2回の実施を求めています。）

⑤働き方改革への対応・教職員業務の効率化にむけて

「開かれた職員室」をコンセプトに、職員室の改修（北側壁をガラス戸に改修）を行い、これを機に職員室等の整理整頓を促し、労働環境（職場環境）の改善・危機管理意識の向上を図りました。

校務支援システム活用し効率化を図る上で中心となっている教務部からは、以下のようなレポートが上がっています。

- ・考査・評価・成績処理・書式については、BLEND利用から2年が経過し、考査枠の統一等により一定は簡潔な形にできた。
- ・成績処理の簡単なマニュアル動画を作成した。
- ・事務局のサポートもあり、調査書等の帳票への電子印化ができた。

- ・時間割については、年間時間割作成が個人についてしまっているのが現状。分割授業が増え、作成の難しさは増している。選択教室が不足する課題あり。

以上のように、校務支援 BLEND システムを活用し、かなり効率化が進んでいる一方、BLEND 社との連携不足による負担も抱えています。2024 年度は通知表をはじめ生徒保護者への配布物は紙媒体から BLEND 配信へとほぼ移行し、教職員間でも会議の一部ペーパーレス化が進んでいます。

⑥生徒募集体制の強化

1. 2025 年 1 月中学入試概況

近年の変更点（今後も継続予定）としては以下のとおりです。

- ・募集人数約 200 名（前期 165 名/後期 35 名）は 2 年目で、今年度から、「ノートルダム学院小学校カトリック校特別選抜制度」上限 8 名に縮小。
- ・「帰国生枠」入試は 2 年目。「0 名～5 名」を一般募集 200 名とは別に募集。

2025 年度入試からの取組みは以下の通りです。

- ・「合格可能性のある」A/B/C ランクの不合格者へ得点開示を開始。（来年度から「合格可能性のある」は事実と相違しているため削除する。）
- ・国・算・理・社の「解答例」（配点は非公表）を、2025/10/1 から配信するオンライン入試説明会にて開示する予定。
- ・帰国生枠の英語テストは「出題サンプル」のみを提供し、問題・解答例は公表しない。

2. 募集・広報活動

2022 年度に体制が刷新された事務局が、新聞や出版物・Web などへの広告掲載の判断および交渉および、学校 HP や案内パンフレットの作製業務を担ってくれました。また入試の答案整理や教室誘導などの業務に入ってくれたことは、教員の大きな負担軽減になっています。

★2024 年度 入試説明会・相談会など 37 件

★2024 年度 学校見学会 外部にむけ 11 件（本校主催のもの）以外